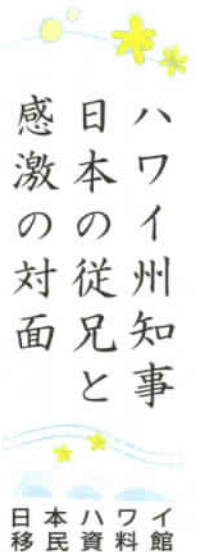


あそぶ・まなぶ・語る

周防大島町総合体育館陸上競技場 / 日本ハワイ移民資料館
八幡生涯学習のむら / 宮本常一記念館

第40号
2022年11月



8月27日、山口県とハワイ州の姉妹提携調印式のために来日されたデビッド・イゲ（伊芸）ハワイ州知事とドーン夫人が日本ハワイ移民資料館に来館し、日本の従兄



と感激の対面をされました。

対面を果たした後、資料館の二階の窓から祖父母の暮らした、三百田（みおた）家の方角を眺めて、「美しいですね」と一言、多くのハワイ移民を送り出した周防大島の歴史と自然を感じているようでした。私たちの町が州知事の心に故郷の一つとして残ってくれると嬉しいですね。

資料館前での報道陣のインタビューで、「従兄と会うことが出来たのは驚きで、本当に感激しました。兄弟たちにも知らせて、周防大島との絆を深めていきたいと思っています」と州知事は笑顔で答えられました。現在は広島に住む従兄の方は、「ハワイに伊芸さんと言う親戚があることは知っていました。州知事ということは知りませんでした」と初対面に感激されていました。

この日は同行のホノルルの山口県人会9名の方々も来館され、資料館の渡航記録の中から各々の曾祖父・祖母の名前を見いだし、「家族の間で言い伝えられていた移民一世の話が記録されていて、本当に嬉しい」と満足された笑顔をいただきました。そして、資料館で特別に作っている

浴衣地のアロハを求められ、「調印式で着ます。とても楽しみです」と県人会の方は式典の行われる片添のホテルへ向かわれました。

スタッフ一同にとっても、ハワイ移民のご子孫である沢山の方々との出会いが素晴らしい一日でした。（砂田信子）

【追記】

長らくの念願であった山口県とハワイ州との姉妹提携が決まり、多くのハワイ移民を送り出した周防大島町でその調印式が行われた。ハワイ州のイゲ知事は、日系三世で、父方は沖繩出身だが、母方は山口県周防大島町屋代地区の出身であり、実家の三百田家は同地区にある浄土宗西蓮寺の檀家である。西蓮寺は、官約移民時代にハワイで最初の浄土宗寺院をハワイ島ハマクアに建立した岡部学庵師を出した寺である。奇しくも周防大島町の藤本町長はその西蓮寺の副住職でもあり、周防大島とハワイが結ぶ縁は、今回の調印にあたってより強い形で現れた。この縁がこれからもますます強固なものになることを願う。（館長・木元眞琴）

●岡部学庵師について

学庵師は慶応2年（1866）、柳井町古開作に生まれる。明治11年に仏門に入った学庵師は、後にハワイ宣教会の布教師としてハワイ島に渡ることになったが、明治27年4月10日付の海外旅券には、大島郡屋代村の「浄土宗西蓮寺住職岡部学庵」が「宗教伝道の為布哇国へ赴く」とある。同年5月のハワイ渡航の際には、三浦・幻性寺の阿弥陀仏を背負って行ったと伝えられる。そして明治29年にハワイ最初の浄土宗寺院「ハマクア仏教堂」を建立し、ハワイ開教の先駆者となった。

ノルディック
ウォーキング町 島 大 防 周
館 育 体 合 総

健康づくりの一環として毎月第4

木曜日に「いきいき健康ウォーキング」を開催しております。ノルディックウォーキングは、北欧生まれの2本の専用ポールを使って歩くウォーキングです。4点歩行により、両足にかかる加重負担を分散させ、膝などへの負担を軽減させるとともに、ポールを使うことで上半身も積極的に動かし、効率的に全身運動を行うことができます。運動の苦手な人でもなたでも手軽に始められ、体力づくり、スタミナアップなどに効果的です。インストラクター指導のもと行いますので初心者の方も安心してご参加ください。日常で出来る体操やウォーキングに関するアドバイスも行っております。

【日時】 毎月第4木曜日 10時～11時半
【場所】 周防大島町陸上競技場※雨天時 総合体育館アリーナ（室内履きをお持ちください）

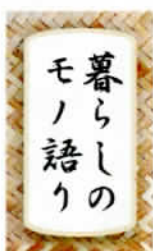
【対象】 どなたでもご参加いただけます。

【参加料】 ポールレンタル 無料
（予約不要です）

【携行品】 タオル・飲み物・帽子等

【その他】 歩きやすい服装でご参加ください。

お気軽にお問合せください。ご参加お待ちしております！

暮らしの
モノ語り
六万点の
民具から
タコつぼ

タコつぼ漁は、岩の間に隠れるタコの習性を利用した漁法です。

久賀歴史民俗資料館所蔵のこのタコつぼは高さ約24センチ、口径11センチほどの素焼きのつぼです。多少の大小はありますが、タコつぼ漁ではほぼこのようなサイズのつぼを使用しました。

周防大島ではタコが多く、棕野の手長タコは島の名物の一つでした。

しかし、周防大島でタコつぼ漁が広く行われるようになったのはそれほど古いことではないようです。宮本常一は「蛸壺漁業へと発展したのはごく近頃」（『周防大島を中心とした海の生活誌』）と書いています。宮本がこの書を世に出したのは昭和11年（1936）ですから、周防大島でタコつぼ漁が始まったのは昭和の初め頃と考えられます。この頃は、長さ約100尋のナワ

一本に通常50～70のタコつぼをつけていました。一尋は約1.8メートルとして一本のナワは180メートルほどになります。これをカタヒル（片昼）に5～6



本繰り上げ、上げたつぼはまた違った場所へ仕かけました。漁獲量は一ナワでタコ1パイ（一匹）か2ハイだったようです。イケマ（船のイケス）にはタコがとまるように楡（ニレ）の木などを入れました。タコを一緒にいれるとケンカをしてしまうので、それを防ぐためです。また、タコはきれい好きで汚れたタコつぼには入らないので、つ

ぼの手入れは欠かせませんでした。タコつぼ漁はタコの習性を知り尽くしての漁だったことがわかります。

時代が下った昭和40年代も周防大島のタコつぼ漁は盛んでした。『東和広報』第139号（昭和41年10月1日）では旧東和町油宇でのタコつぼ漁について油宇のタコナワをつなげば「大島から姫路まであるというからびつくりするだろう」と伝えて

います。大島から姫路

までは300キロ近く

あります。まさに「タコが聞いたらさぞ真赤

になってなげくことだろう」（同前『東和広報』）というほどの盛

況ぶりでした。

現在でも、周防大島の港を歩くと整然と並ぶタコつぼを見ることがあります。しかしながら、そのタコつぼはほとんどプラスチック製となっています。さらに雑力ゴとよばれるカゴも多く用いられるようになり、割れやすい焼き物のつぼよりも扱いやすくなりました。その代わり、カゴの中にはエサを入れているということです。（古賀瑞枝）

宮本常一記念館内 収蔵庫テレビ放映

9月15日、テレビ山口の情報番組「mix（ミックス）」で当館が紹介されました。この番組は県内の様々な場所を訪ね、その魅力を発信するもので、今回は周防大島町内に所在する当館や星野哲郎記念館、なぎさ水族館などが取り上げられました。

放送に先立つ9月5日、テレビ局の取材班が来館され、学芸員が館内の見所を案内しました。今回は特別に、館内にある収蔵庫への立入を許可し、資料の保管状況や注目資料などを取材していただきました。



写真・日記集成』別巻や『宮本常一日記青春篇』にも掲載されています。これら図書は当館でも閲覧できますので、興味のある方は是非お越しください。
(板垣優河)

こちらの収蔵庫では、温度・湿度の管理や虫害に気を付けながら、宮本常一ゆかりの蔵書、調査ノート、著作原稿、書簡類、写真フィルムなどを保管しています。このうち、宮本が民俗調査に臨んで作成した聞き書きや地図、統計表、歌集などの文書資料414点が、令和4年3月4日に「宮本常一関係資料」として山口県有形文化財（歴史資料）の指定を受けました。

文書資料については一つずつ目録をとり、中性紙の封筒に入れて保管しています。現時点で整理が済んでいるのは約6000点です。しかし、未整理のものが別に3500点ほどあり、そのなかには青森県下北半島

の調査ノートなどの重要資料も含まれます。それらの整理と内容把握を推し進めることが、当面の大きな課題です。

さて、15日の放送では特に昭和14（1939）～1943）の写真や収めたスクラップブックが取り上げられました。宮本は戦前から写真撮っていました。そのほとんどを大阪堺の空襲で焼失しています。これは奇跡的に戦災をまぬがれた一冊で、写真には撮影した年月日や場所などがメモされています。戦前の様々な人々の営みを、このよう

なカタチで克明に記録した資料はあまりないと思います。ここに収められた写真は毎日新聞社の『宮本常一

イベントひろば

八幡生涯学習のむら

「表具講座作品展」開催中



学習のむらで開講している表具講座の講師と受講生の作品展です。作品の中にはご自身やご家族の書画や記念の作品を表装したものも。学習の成果をぜひご覧ください。また期間中の土日には表具講座を開催中です。制作風景の見学もできます。

【期間】令和4年11月8日（火）～11月27日（日）

【時間】9時～16時（最終日は15時まで）

【休館日】月曜日

【場所】八幡生涯学習のむら

学びの間

※表具講座開講日

【日程】11月5日（土）、6日（日）、13日（日）、19日（土）、26日（土）、27日（日）

【時間】13時半～16時半

一枚の古写真



左の写真は、宮本常一が昭和35年（1960）の10月26日に、浮島南岸の江ノ浦で撮ったものです。浮島は、内浦でひととき存在感を放つ町内第一の離島で、島へ渡るには橘地区の日前港から1日4往復の定期船「ひらい丸」に乗ります。

写真を見てまず気付くのは、民家の屋根や石垣の上などをうまく利用して、イワシがたくさん干してあることです。浮島ではイリコの製造が盛んで、網で曳いたイワシを釜で

さつと茹でた後、写真のように枠付きの竹簀（たけす）に広げ、天日に干していました。ちなみに、民家の石垣を構成する石は白色で一つ一つが大きく、堅牢な印象を受けます。これら石は島西岸の楽ノ江から切り出された御影石（花崗岩）ではないかと推察します。



楽ノ江での採石活動も、島の重要な産業の一つでした。

また、民家の背後の山腹には段々畑が重々続いている様子が垣間見えます。浮島は弘治元年（1555）の敵島合戦で陶氏にくみした宇賀島衆が村上水軍に全敗して以降、一時無人島になりましたが、17世紀後半から本格的に開墾が始まり、島土の大部分が拓かれました。

さらに、この写真を活気付けているのは、大勢の子供たちです。楽ノ江にある浮島小学校からの下校途中で、楽ノ江から江ノ浦までは船を利用しました。この時のことについて、宮本『私の日本地図9』（1971年）のなかで次のように記しています。

「子供たちがどつとやって来て船に乗った。そしてはしゃぎまわった。船には五、六〇人あまりも乗ったであろう。船が江ノ浦へつくまでの間、しゃべりふざけ、少しもじつとしていなかった。ここでは

子供たちも自然のままであった。そして人間にとつて、もっとも大切な素朴さが一人一人の中に生き生きとしているのを見た」。

風光明媚で天然資源にも恵まれた浮島は、生命力と生産力に満ちあふれた島でした。この写真はそうした島の魅力をうまく捉えているように思えます。（板垣優河）

大正大学来訪

宮本常一記念館



【写真＝服部屋敷内の案内】

8月26日、大正大学の研究室のみなさんが来館されました。

みなさんそれぞれ関心のあるテーマをお持ちでしたが、葬送儀礼などを中心として道具や習俗の調査を兼ねた訪問でした。

まず宮本常一記念館をご案内した後、道の駅まで移動し、同敷地内の東和収蔵庫で保管している周防大島

東部の生産用具と、隣接する服部屋敷、そして宮本にとつてもゆかりの深い真宮島を巡りました。一行は翌日も滞在され、ほかの地区の資料館や民具も見て回られたようです。

葬送儀礼に関する資料は少なかったのですが、宮本の業績や、服部屋敷に使われた当時の大工の技法、そして保存された民具に使われた技術や周防大島の特徴を紹介しました。

「宮本の関心や民俗の変化に対する考え方なども触れながらの解説について、共感するところが多かった」といったご意見や、宮本主導で集めた多くの民具には、「大島の人々の往時の暮らしが想像され、葬送儀礼とのつながりにも関心を持った」、「地区ごとに収集されていて、その地区の特徴が表されていることが素晴らしい」、「保存は大変だと思いますが、たくさんあることから見えてくるものがある。是非、大切にしたい」などの感想をいただきました。コロナ禍で訪問が難しいと思われましたが、熱心にきいてくださり、関心をもっていたいただいたようです。（徳毛敦洋）